

[退職のご挨拶]

退職にあたって

東北大学情報部情報基盤課共同利用支援係 齊藤 くみ子

定年を無事迎えることができました。今まで出会った教職員、利用者他すべてのみなさま 1 人 1 人に感謝申し上げます。

せっかくなので、私がセンター（当時は大型計算機センター）に就職した昭和 50 年台前半のひとつまを少しだけ書きたいと思います。当時の計算機処理の主流はパンチした紙のカードの束を、センター窓口に計算依頼（バッチ処理）して、約半日後にその結果を専用ボックスで受けとるというシステムでした。夜間受付もあり朝から夜遅くまで、多くの白衣姿の教官や学生さんが、カードの入ったジュラルミンケースや段ボール箱を抱えて現れ、次々と計算を依頼し、結果を受け取りに来るといった毎日でした。ラインプリンタで出力された計算結果が厚い束のときはいいのですが、エラーで終了しているとその紙は数枚でまた間違いを探しやり直すという様子でした。当時、片平にあったセンターの 1 階は板張廊下で一部傾斜があり、スリッパで滑るようにして面白がって私も利用者も移動していました。勢いあまってバランスを崩し、順番に並べてあったプログラムカードやデータカードの束を廊下にぶちまけるという事件も時々ありました。カードを拾い集めるまではお手伝いしましたが、「あとは自分で並べ直します。」とみなさん肩をおとして帰っていかれました（このことがわかる方は 60 代以降の方かと…）。

センターでの最初の所属は業務掛（現在の共同利用支援係）で、初めて担当した仕事のひとつが広報誌 SENAC の配布リストを手書きで作ることでした。当時はワープロもありませんでした。3 年ほどで研究開発部に異動し、しばらく広報等の仕事から離れましたが、その後また事務部に戻り 2006 年より SENAC に縁があったのか編集を担当することになりました。歴代の係長や大先輩の職員が担当していた仕事で、正直自分に担当が廻ってくるとは思っていませんでした。引き受けたからには自分なりに工夫もして作業しましたが、そもそも抜けているところも多い上に、複雑な作業も多く、執筆者とのやり取りは緊張することもあり、今もあまり適性はないように思っています。しかし、15 年も続けてこられたのは、執筆者、編集部会のメンバー、センターの教職員、そして各印刷業者の担当者の方々、みなさんに暖かく適切な対応で助けていただいたおかげです。そんな中文章をチェックするコツが少しだけつかめました。1 回目は文字を追って文節番号や図番号もチェックします。2 回目は文章として読んでみます。3 回目は少し時間をあけて全体を読み直しますが、意外と 3 回目にも修正点を発見できたりします。しかし自分の書くものは今でもミスが多いです。SENAC 以外にも、特に講習会や利用相談（旧プログラム相談）の仕事は長い期間関わらせていただきました。こちらの方も関係した講習会講師や相談員の皆様に大変お世話になりご協力をいただきました。

長い在職期間、職員親睦会（びっと会）のスポーツ大会・旅行・忘年会、全国 7 センター間の野球大会、職員有志、プログラム相談員、研究室の学生さん、それぞれのメンバーでのお花見、芋煮会、スキー旅行、飲み会等大小たくさんのイベントがありました。近年、私自身も含めそのようなイベントを少し面倒に感じる風潮もありましたが、今となってはいろいろな行事で楽しませていただいたと思います。コロナが収まったらまたみなさんとそういうことも少しはしてみたい気持ちです。

4 月以降も引き続き、センターで共同利用支援のお仕事をさせていただけることになりました。皆様の足をあまりひっぱることがないよう頑張りますので、よろしく願いいたします。